

氏名	キム ソンリョン 金 聖龍
所属	都市環境科学研究科 都市環境科学専攻 建築学域
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	都市環境博 第193号
学位授与の日付	平成28年9月30日
課程・論文の別	学位規則第4条第1項該当
学位論文題名	小規模高齢者介護施設における多機能サービスに対応した施設計画に関する研究
論文審査委員	主査 教授 竹宮 健司 委員 教授 角田 誠 委員 教授 吉川 徹

【論文の内容の要旨】

日本の高齢者介護施設は、通所施設、短期入所施設、入所施設のように提供する介護サービスごとに施設が整備されてきた。そのため、利用者の介護度が上昇すると、より多くの介護が提供される施設への変更や転居が強いられ、生活拠点を移動することに伴う衝撃、いわゆる「トランスファーショック」によって認知症状が進行してしまうなどの問題が指摘されてきた。また、特別養護老人ホームに代表される入所施設は、入所定員が50名を超える大規模な施設が主流であったため、入所高齢者を集団的に処遇する介護のあり方が問題視されてきた。こうした高齢期の生活拠点移動や大規模な入所施設での集団的な介護のあり方に疑問をもった介護・看護職員たちが、住み慣れた地域の中で高齢者の個別的なニーズに合わせて、「通い」「泊まり」「住む」等の介護サービスを柔軟に組み合わせる「多機能な介護サービス」を提供する施設「宅老所」を創設した。1980年代半ばから、草の根の取り組みとして始まり、全国各地に広がりを見せた。その後、2006年の介護保険制度の改正時には、宅老所をモデルとした「小規模多機能型居宅介護」が制度化され、同一介護者による「通い」「泊まり」「訪問」のサービスが小規模な空間で提供されることが可能になった。しかし、「住む（居住）」サービスは、同制度の中には含まれず、利用登録者数に上限が設けられるなど、宅老所の考え方が部分的に取り入れられることになった。

本研究では、15人以下の小規模な高齢者介護施設を「小規模高齢者介護施設」、高齢者の個別的なニーズに応じて複合的・継続的に利用できる同一介護者によるサービスを「多機能な介護サービス」と定義した。建築計画分野における小規模高齢者介護施設に関する既往研究をみると、施設運営・利用状況や施設平面構成を断面的に捉えるものや、少数事例を対象に在宅生活との関係や生活展開に着目したものである。いずれも、介護保険で規定された

機能や空間構成に関する検討はなされているものの、制度化以前から先駆的な取り組みを行ってきた小規模高齢者介護施設における多機能な介護サービスを提供する過程やその空間対応の状況については検討がなされていない。

そこで、本研究では、このような多機能な介護サービスを提供してきた小規模高齢者介護施設における介護サービスとその空間対応の変遷と空間の利用実態を明らかにし、小規模高齢者介護施設における多機能な介護サービスに対応した施設計画要件を提示することを目的とする。

本論文では、以下の4章により構成されている。

第1章では、研究の背景として、日本の高齢者介護関連施策の発展経緯を整理するとともに、既往研究を整理した上で本研究の位置づけを明確にし、研究目的、研究方法、研究の構成を述べた。

第2章では、高齢者の個別的なニーズに応じて多機能な介護サービスを提供してきた小規模高齢者介護施設における介護サービスとその空間対応の変遷を明らかにするため、まず、全国各地に所在している小規模高齢者介護施設の取り組み状況を把握した上で、先駆的な5つの介護サービス事業者を選定し、資料収集調査と実地踏査を行った。利用者の個別的なニーズに応じてサービスを付加していく過程や、利用者の増加に対して小規模な定員を維持するために施設を新設していく実態を示した。次に、先駆事例の中から介護サービスとその空間対応の変遷が明確である5施設を選定し、提供サービスの変容とその要因を詳細に把握し、分析を行った。さらに、サービスを提供する空間構成・面積の分析を行った。また、それらの結果を介護サービスの多機能化の過程と介護保険事業導入後のサービス変遷に分けて考察を行った。

第3章では、異なる空間構成をもつ先駆的な2つの宅老所を対象に、開設時からの全利用者記録の分析と施設内観察調査を行い、各施設の全利用者の利用開始から利用終了までのサービス利用内容・期間およびサービス提供体制を経年的に把握し、その特性を分析した。また、小規模高齢者介護施設における多機能なサービスと空間の利用実態を明らかにするため、施設の空間の使い方や利用者の室内での過ごし方を長期的な視点で比較分析した。これらの実態分析から、多機能なサービスを複合的に利用することで、利用者の生活が安定し長期間の施設利用に繋がっていることや、利用者の個別的な過ごし方に対応した空間構成や設え等の建築的要素が当該宅老所での介護を支えてきたことが明らかとなった。

第4章では、各章で得た知見をまとめ、今後の小規模高齢者介護施設における多機能なサービス提供に対応した空間構成と施設計画要件を示した。